

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.30 2016.6.1
TEL71-2466

公民館長選任される

4月1日付で公民館長が任命されました。

▼豊科公民館長 内川 丈夫男(再任) ▼穂高公民館長 中田 光男(再任)

▼三郷公民館長 千國 温(再任) ▼堀金公民館長 山田 賢一(新任)

任期はそれぞれ2年で、明科公民館長の任期は、平成28年10月31日までです。

◎「集い」「学び」「憩い」の場としての公民館

堀金公民館長 山田 賢一



このたび、堀金公民館長を拝命し、生涯学習と地域づくりの推進の一翼を担わせていただくことになりました。

社会の急激な変化に伴い、心の豊かさや生きがいを求めて市民の学習ニーズは増し、多様化・高度化してきています。

一方、高齢者や独り暮らし世帯が増え、地域におけるコミュニケーションの在り方が大事なキーワードとなっております。

うな中、高齢者や子どもを含めた多様な年齢層が集まり、「楽しかった。またやりたい。もっとやりたい。」と、共有し合える機会や場をつくっていく必要があると思います。

また、市民のニーズに応じて不易と流行の視点を加味し、将来的な公民館活動の在り方も展望しつつ、気軽に参加できるように、より地域に密着した活動、そして関係する諸団体が連携・協働できるようなネットワークづくりを目指していきたいと考えます。

微力ながら精いっぱい取り組みたいと思いますので、皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。就任のあいさつといたします。よろしくお願いたします。

幅広い世代の市民作品集集まる 第5回安曇野市総合芸術展開催



3月4日～23日までの20日間、豊科交流学習センター「きぼう」の多目的交流ホールで「第5回安曇野市総合芸術展」が開催され、市内外から延べ1300人が訪れた。

出展作品は、絵画18点、水墨画7点、書道25点、写真15点、工芸18点、彫刻・彫塑9点の合計92点で、各地域文化祭での出展作品が展示された。また、豊科近代美術館との連絡通路を開放し「友の会」の絵画部展と同時期に開催することにより来場者の増加を図った。

今回は、高校生が制作したトマトやスマホが描かれた絵画作品、共同で制作したマクラメ、今話題となっている真田幸村の甲冑なども展示され印象的な作品が揃った。

期間中、設置したアンケートには「年々、向上している」「毎年続けてほしい」などの言葉が数多く寄せられた。

平成28年度は、改善点も検討しながら更なる発展を目指し取り組んでいく。



3公民館完成

豊科公民館

豊科公民館は、昭和42年の開館以来、地域の学習活動や交流の場として多目的に利用され、長きにわたり社会教育機関としての役割を担ってきた。

しかし、新耐震基準適用以前の建物であり、老朽化も激しいことから平成26年9月から耐震補強・大規模改修工事を行い、このほど完成した。

耐震補強、内外装の改修の他、新たにエレベーターや多目的トイレを設置。ホールは、座席や照明を一新した。また、安曇野市教育支援センターを設置し、社会教育と学校教育の複合的な教育施設となった。



しゅん工式は、3月27日にホールで関係者約250人が出席して行われ、式典では、宮澤市長のあいさつをはじめ、来賓からの祝辞があり、また、設計・施工業者から記念品として「あづみ野ガラス工房」制作のオブジェ「5つのしらべ」(写真右上)が寄贈された。

このオブジェは、5つの町村が一つになり安曇野市が誕生し、これからますます発展していくことを願い表現したものでホールホワイエの壁面に飾られている。

安曇野市消防団音楽喇叭隊のファンファーレに合わせたテープカットに引き続き、記念セレモニーが行われ、市歌「水と緑と光の郷」を安曇野混声合唱団による合唱から始まり、会場にいた全員で市歌

を斉唱した。また、地元の豊科北、豊科南中学校吹奏楽部の演奏、安曇野市太鼓連盟の威勢の良い太鼓演奏が披露され完成を祝った。生まれ変わった豊科公民館が、地域の生涯学習活動の拠点となることを期待している。

三郷公民館

4月27日午前10時から、改装された三郷公民館講堂で、多数の来賓や工事関係者、宮澤市長以下市職員などが列席して、三郷支所・三郷公民館のしゅん工式が挙行された。

築35年を経た三郷公民館は、建物本体および冷暖房施設の劣化などに伴う改修を行った。また、耐震補強の工事と講堂の音響設備工事に加え、三郷支所の併設に伴う一部増築工事も併せて行ってきたが、3月末日に全ての工事が終わ



明るくなったロビー



り、4月11日に三郷支所、翌12日に三郷公民館がオープンとなった。

リニューアルオープンした三郷公民館は、施設の一部を除き全館下足のままで利用が可能となった。新たにエレベーターも設置されて2階の利用が便利になり部屋も一室増えた。また、ダンスや音楽などに利用できるスタジオが新設された。講堂は、音響改善のための音響板が新設され、ステージも低くし、ホール利用の座席数は260席まで設置可能である。公民館の施設全体が明るく快適に利用できるようになった。

公民館ロビーの東側に隣接する「安曇野市三郷支所」は南に面し事務室が設けられ、支所の業務を行う地域課職員、公民館の館長と社会教育指導員が勤務している。ぜひ、気軽に立ち寄って声をかけてもらいたい。

堀金公民館

平成27年8月からの堀金支所等
改修工事が完了し、4月1日のオ
ープレニングセレモニーでテーパ
ットが、同月27日にしゅん工式が
行われた。

堀金支所『等』とあるように、
今回の工事により堀金支所は複合
施設となり、1階には市役所支所
機能および上下水道料金センタ
ーが、2階には堀金図書館、交流ラ
ウンジおよび学習室が、3階には
堀金公民館が入り、別館は調理実
習棟となった。

なお、3階の堀金公民館は、会
議室が4部屋、創作室が1部屋、
スタジオが2部屋で構成されてい
る。

今回の工事によりスタジオが新



たに設けられ、床がフローリング、
壁には姿見鏡が取り付けられて、
ダンスやヨガなどの活動に最適な
場となった。

調理実習棟は、調理台の増設、
調理器具の拡充など、多様な調理
に対応できるようになっている。

この記事で全ての機能を紹介す
ることはできないが、ぜひ一度お
越しいただき、新しくなった堀金
公民館を一人でも多くの皆さまに
利用していただきたい。



スタジオ 2

地区公民館だより

下押野地区公民館(明科)

下押野を流れる五カ用水は、上
押野で内川用水から取水し、下押
野山麓を回って犀川左岸段丘を塩
川原、荻原、中村、小泉に至り、
先人の苦勞を映している。下押野
地区は、そのおかげで養蚕農家や
飯米農家から脱することができ、
現在では、明科唯一の工場団地を
有している。

公民館の役員は、1期2年を務
めるが、半数が交代する仕組みづ
くりが定着しているため、事業推
進は停滞することはない。

最近団地ができて、現在地区に
は約230戸ある。新しい人々と
の交流もうまくいき、地域のさま
ざまな行事に積極的に参加してく
れる人も多く、住みやすい地域で
ある。

社会体育事業として、ソフトボ
ールナイターリーグ戦参加。春・
秋のマレットゴルフ大会には延べ
70人が参加。その他、あやめスポ
ーツ大会、市民運動会、川西地区
ソフトボール大会がある。

夏に集会センター広場で行う納
涼祭は、盆踊り、余興、バザーな
ど、350人が参集する住民交流
の唯一の事業である。また、他団



体との共催事業で行った人権講座
で、明科の歴史などを学んだ。健
康講座では、音楽で広げよう仲間
の輪、しめ縄講習会は評判が良か
った。

諸会議、諸事業などを含めると、
席を温めることはできなかった。
高齢化社会だと言われるが、伝統
をつないでいけば、マンネリ化は
あっても、新しい工夫がまた生ま
れてくるものだと思う。

下押野地区公民館長 村井龍彦

グループ紹介

リコ・フラサークル(三郷)

「リコ・フラサークル」は、三郷公民館で活動をしているフラダンスサークルである。平成25年度に三郷公民館が開催したフラダンス講座の参加者20人で結成し、発足3年目を迎えた。

会員は、会社員や主婦など、40代から70代の女性で構成し、地区在住の森島もも子さんを講師に、毎月3回、火曜日の夜に三郷公民館で練習を続けている。平成28年4月に同館が改修され、ミラー貼りで新装された快適な環境のスタジオ201が練習会場になった。サークルの活動目標は「楽しく」がモットーである。楽しみの先に



【優雅さ・美しさ・優しさ】を目指している。練習も常に女性らしくを意識して、フラダンス衣装のハウスカートを身に付ける。基礎をしっかりと学ぶことから始め、ステップが身に付くまで、のんびり練習する。

結成直後の平成26年、三郷祭に参加して発表し、芸術文化協会に加盟して活動が活性化している。三郷祭の出演ごとに衣装を作ることにして一年間の楽しみも増えた。その間、「三郷夏祭り」明科の「あやめまつり」への出演や、社協、JAあづみ「あんしんの里」などへのボランティア参加活動を続けてきた。年2曲を習得して「カイマナヒラ」「プアマナ」「プアカーネーション」「アロハウクレレ」「エフリマコウ」を披露する。

活動は舞踊技術にとどまらず、フラダンスの持つ伝統芸能としての歴史的な背景や伝承を学ぶ座学の時間を設けている。歌詞の中の「ことば」を読み取り、歌の意味を知り、内容の理解に努めている。手の動きの一つ一つに意味があり、曲の内容に添った衣装がある。歌の心が伝わるように気持ちを込めて、日々の練習を重ねている。ハウスカートを身にまとい、思いが体を揺り動かして、誰もが日常から離れ、ダンサーになる。

会長・大谷直子 連絡先・三郷公民館(77・2109)

私は一生懸命



穂高人形・御船祭保存会 保守教室教室長 山田 孝さん

穂高人形・御船祭保存会には、保守教室があり、その教室長を務める。人形師の保守和夫さんに先生をお願いし活動している。生徒は地域、年齢、性別を問わず誰でもいつでも参加できる。また、製作材料、費用は保存会から賄われている。

現在の生徒数は12人で、うち1人は女性だ。矢原区の吉原さん、穂高区の渡部さんは現在中学1年生で、小学5年生から研修をしている。月2回、日曜日の午後には先生から指導を受ける。

昨年の製作は、市庁舎の開庁時に「ものぐさ太郎」、嵩下の館宮神社の御船「鞍馬山の牛若丸」、やまびこドームにて穂高神社遷宮祭PR「真田幸村・大助父子」、

東京銀座八十二銀行に「鬼女・紅葉」、穂高文化祭には「佐野源佐衛門・北条時頼の鉢の木物語」、1月に若年層人形講座として合戦のぼり旗作りを行った。

3月に穂高南小で「松下禅尼が障子の切り張り」で北条時頼に質素検約を諭す」を展示した。遷宮祭の関係は1月から毎週土日の午後、人形や必要部品、背景部品を製作。4月からは穂高区、睦友社の皆さんに協力しステージ作りを行った。

遷宮祭飾りとの関わりは、昭和38年に社会人となり、穂高区の祭青年会睦友社に入ったことから始まる。その青年会は、昭和53年に一度解散したが、その後、祭典保存委員会が立ち上げられ新しい睦友社の再興にも携わった。平成14年には社長として遷宮祭飾りを行っている、現在も社員として参加し続けている。この間足掛け54年、今回で8回の遷宮祭飾りに関わってきた。今後も地域の貴重な文化資産の御船祭を伝承していく活動を仲間と共に続けていきたい。

樺

新年と新年度の二つの切り替え時を持つ日常の中で、また新年度が始まった。日々が続く延長線の季節と暦に合わせた尺度の上で、新しい環境に踏み出す人がいる。一方、昨日と同じ周期で今日を迎え、毎日何も変わ

らない状況にいる人もいる。昨日が今日、今日が明日を繰り返す立場の人ほど、切り替え時の環境を心の姿勢に享受したい。安曇野市が、公民館が変わっていく。市民は共に歩む道を見据え新年度を区切りとしたい。(T・Y)